

平成二十二年度 修士論文要旨

ハンガリー語での最初の日本語の教科書の成立について

アルベケル・アンドラーシ

一九〇五年にハンガリーで *Rozsnyai* (ロジニヤイ) 出版社が独学用の『外国語速習』シリーズの第15巻目として『日本語速習』を出版した。これはハンガリー語で書かれた初めての日本語の教科書である。本稿では『日本語速習』の著者は誰であるか、著者がどのような資料を参照して執筆したかといった成立の問題解決を試みた。

『日本語速習』は全64ページで、その内容を文法篇・会話篇・辞書篇・文字篇のように四つの部分に分割することが出来る。文字篇の一部を除き、全書がローマ字で書かれている。

著者は *Akanitz Viktor* (1864-1943) で、ブダペシュト大学で哲学と法学を学び、卒業後翻訳者、作家、イラストレーター、画家、書籍修復師などとして生計を立てた。

来日の有無、日本語学習経験について情報はないが、来日したことがなくとも、ブダペシュトで日本人と接する機会があったと考えられる。しかし、著者についてより多くの情報を与えられるはずの一九二五年の自伝が、現在何処に所蔵されているか不明である。

Akanitz は、『日本語速習』を執筆する際、ドイツの *August Seidel* という言語学者の著述した『実用的日本文典』、『日本文典』、『日本文語文典』、『日本口語体系的辞書』を参照したことが明らかになった。*Seidel* は、例文と読み物を日本の書籍から引用したので、その一部は『日本語速習』の会話篇と文字篇に利用された。文法説明は *Seidel* に基づいているので、印欧語文法の影響が強いが、著者は副詞と後置詞・接尾辞の章で、日本語と同じく膠着語であるハンガリー語と対照して説明を試みたと思われる。

『日本語速習』には誤謬と不完全な説明もあるが、ハンガリー語で書かれた初めての日本語の教科書として貴重な資料であり、ハンガリー語と対照して説明しようとする点で欧米の日本語の教科書と異なる性格を持っている。

〔付記〕本稿に基づく論文が、本誌第26号(今号)に掲載された。

京都大学

國文學論叢

第26号



芥川文学の変容……………	田鎖 数馬	(二)
〈谷崎源氏〉考(二)……………	中村 ともえ 三嶋 潤子	(二七)
——『潤一郎新訳源氏物語』愛蔵本における 改訂に関する調査報告(統)——		
〈谷崎源氏〉考(三)……………	中村 ともえ	(三五)
——『潤一郎新訳源氏物語』愛蔵本における 改訂に関する調査報告(補)——		
豫楽院 近衛家熙公年譜稿(四)……………	緑川 明憲	(三九)
<small>京都大学 附属図書館蔵</small> 菊池三溪自筆稿本目録(三)……………	福井 辰彦	(五七)
平成二十二年度 修士論文要旨……………		(九二)
ロジユニヤイ『日本語速習』の 著者と出典について……………	Albeker Andriás	(23)
芥川龍之介「切支丹物」の材源(二)……………	須田 千里	(1)
——『さまよへる猶太人』——		



京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室

平成23年(2011)9月